

Reading Progressの 音声認識機能で



個別最適な音読練習

ICT活用場面

高校2年 外国語(英語)
「World Dance
Performance」
(全8時間扱い)

準備するもの

- ・Windowsタブレット
- ・Microsoft Teams (Reading Progress)
- ・マグネットスクリーン
- ・Microsoft Forms
- ・プロジェクタ

インターネットの利用

有

ICT活用のメリット

- 生徒は、音読学習の際、誤発音等をしている語句を、即座に視覚的に認知することができる。
- 生徒は、個別最適な音読学習を通して、正しい発音を身に付けることができる。
- 教師は、生徒が難しさを感じている語句を把握できるため、音読指導及び発音指導の効率化を図ることができる。
- 教師は、読み方の正確さのみならず、読みの流暢さ(1分毎の正しい単語数等)に関わるデータを生徒に提示できる。

授業の一例(6/8時)

本時のねらい

語句の意味や発音等を意識して音読することを通して、文章の内容理解を深めることができる。

主な学習活動

1. 本時の目標を確認する。
2. 新出語句を復習する。
3. 教科書本文の内容を復習する。
4. Reading Progressの使用方法を確認する。
5. Reading Progressを活用して音読学習を行う。
6. 個別最適化された単語リストの発音練習を行う。
7. 本文の内容が伝わるよう工夫して音読する。(ペア活動)
8. 本時の振り返りを行う。

タブレット活用場面

5. 音読を何度も録音し、誤発音等をしている箇所を知る。



6. 誤発音をしていた単語がリスト化される。各自それを基に、正しく発音できるまで練習を行う。



8. Microsoft Formsを活用して本時の自己評価を行う。

生徒の声

- ・自分が正しく発音できていない単語はどれか認識し、その正しい発音を把握できた。
- ・その単語の発音を練習し、正しく音読できるようになるとともに、本文の内容理解が一層深まった。